

はじめに

本書は、「スマホで学ぼう」シリーズの第三作目になります。このシリーズのきっかけは6年ほど前に大谷悦世先生が主体となって行った歯科衛生士専門学校の臨床実習先の先生方へのアンケート調査の中で、実習前に実習生に診療の流れを理解しておいて欲しいというご指摘があったことでした。インストラクターの間では診療の流れこそ臨床実習先で教えてほしいといった意見もありましたが、それに対応するために臨床実習前に動画を用いてスマホで学習可能な教材が必要と考え、大谷先生および竹之内茜先生が中心となって教材作成が始まりました。どれも最初に計画した以上で、この教材作成を発案した者として感慨深いものがあります。

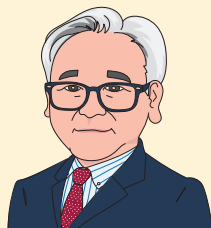
竹之内先生は、2021年3月に東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科の博士課程を修了し、博士（歯学）の学位を授与されています。大谷先生も現在学術的なトレーニングを受けています。このキャリアは歯科衛生士の教育に大変重要で、今後はネット上での有力な新しい教材開発につながる事が期待されます。

本書の出版にご尽力いただいた一世出版の原田育叔社長、編集部の磯野由香利様、手山晃一郎様にお礼を申し上げます。

2021年11月8日

監 修

東京歯科大学名誉教授 松久保 隆



新人歯科衛生士の大半が、「SRPを習得したいからセミナーを受講したい」と考えます。それもそのはずです。学生時代に何度もSRPを実践し、習得できる機会はなかなかありません。そして、「指導してくれる先輩がいない」「診療が忙しくて指導してもらう時間が取れない」などの理由から、多くの歯科衛生士はSRPに関するセミナーに参加します。しかし、複数あるセミナーの中から、どのセミナーに行けばいいのか？ セミナーを一回受講するだけで、技術を習得できるだろうか？ と、悩んでいる歯科衛生士は多いと思います。本書はそんな新人歯科衛生士、復職を考えている歯科衛生士、歯科衛生士学生のために作成しました。セミナーを受講することはとても有効だと思います。しかし、基本的なことは自分で確認してから受講したほうが、より有意義な時間になります。

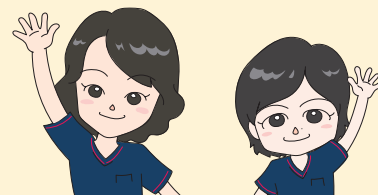
本書は「スマホで学ぼう」シリーズの第三作目で、SRPと口腔内写真撮影の基本を動画と写真で学習できます。また、卓上式なので、マネキンでの練習中にも見ることができます。自分のペースで何度も見返すことで、確実に技術を習得していきましょう。

本書をご監修いただいた東京歯科大学名誉教授の松久保 隆先生、本書作成にあたりご支援いただいた新宿医療専門学校の先生方には心より御礼申し上げます。

最後に、本書の出版にご尽力いただいた一世出版の原田育叔社長、編集部の磯野由香利様、手山晃一郎様にお礼を申し上げます。

2021年11月8日

新宿医療専門学校 歯科衛生学科
竹之内 茜、大谷 悦世



各項目のみかた

SRP編

各項目の写真やポイントを
確認しながら、施術中の自分
の動きをイメージしましょう



①学習する部位を確認します。
模式図を見て、固定指を置く
位置、スケーラーの動かし
方をイメージできるか考
えてみましょう。

②術者目線の写真です。
真似してみましょう。

③第一シャンクが歯軸に平行
になっている様子を確認し
ましょう。

④動画で実際の動きを見てみ
ましょう。

口腔内写真編



①見本写真を確認しましょう。

②撮影時の注意を確認しま
しょう。

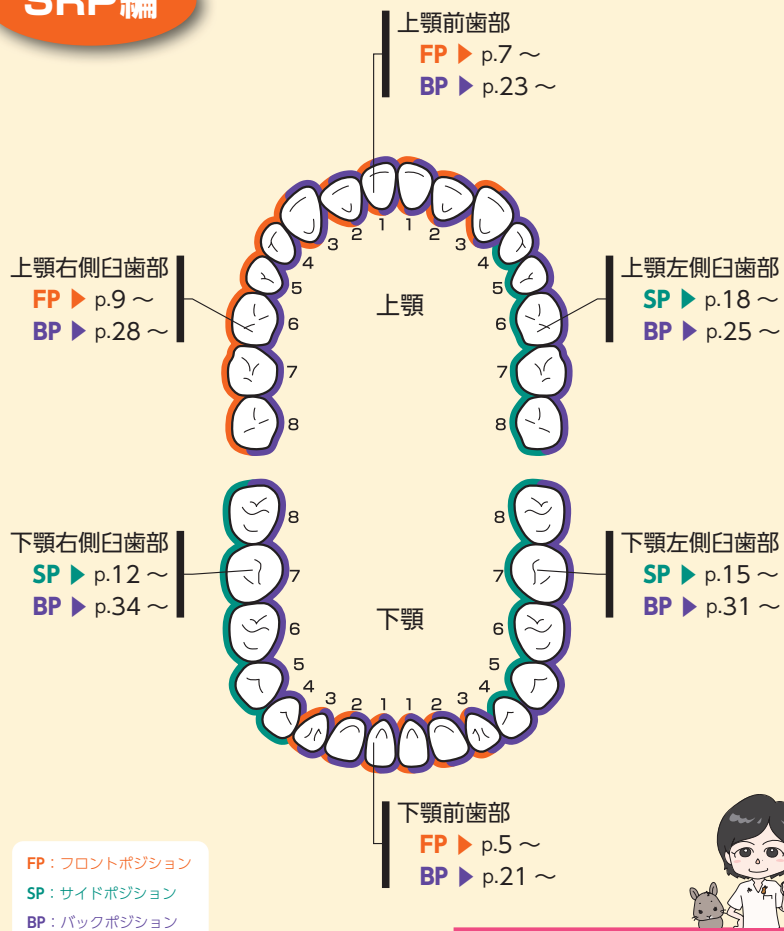
③動きをイメージしましょう。

④失敗例もチェック！

⑤実際の動きを動画で見ま
しょう。

もくじ

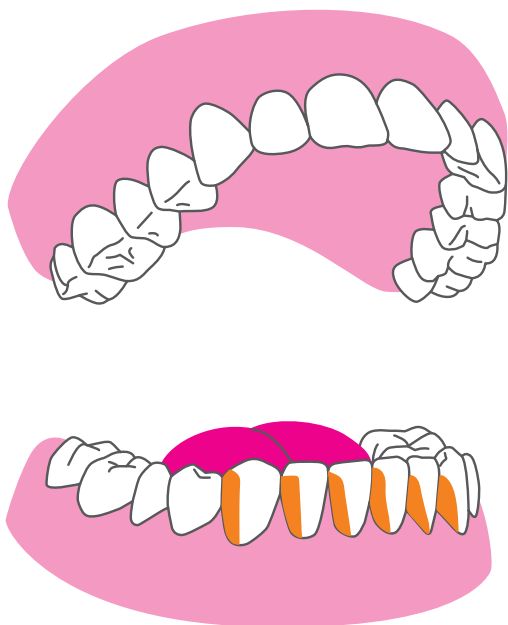
SRP編



口腔内写真編は p.37 ~

下顎前歯部唇側 3-1 遠心 1-3 近心

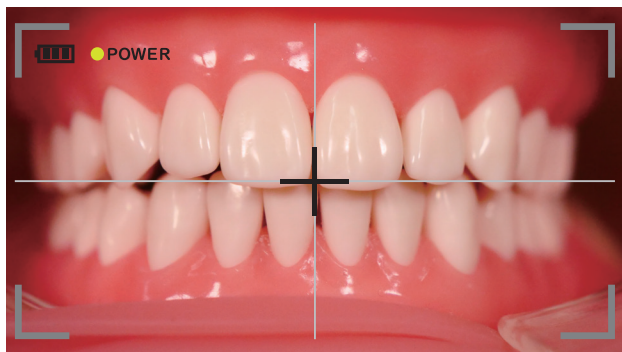
- ✓ キュレット：#6
- ✓ ヘッドレスト：あげる（患者の顎を引く）
- ✓ 視野：直視
- ✓ 患者の顔の向き：正面またはやや右・左



拡大



正面観



- 1 ファインダー（モニター上に表示される線）の水平野線と咬合平面を一致させる。
- 2 画面中央に左右中切歯の隣接面が来るようにする。
- 3 フォーカス（ピント）を上顎2、3番の隣接面に合わせる。



- 1 口角鉤を口唇に滑らせるように挿入し、所定の位置で患者さんに持ってもらおう。



- 2 反対側にも同様に挿入する。



- 3 中心咬合位で咬んでもらう。



- 4 咬合平面と水平に、唇を膨らませるように口角鉤を引っ張ってもらう。

失敗例



- ✕ 口角鉤が歯肉にくっついたままです。唇を膨らませるように引っ張りましょう。

必要に応じて、撮影直前に唾液をエアーで飛ばします。

